

駅伝

山口遥大

(2019 年度入学 鈴木ゼミ 3 期生)

京都は観光都市であり、多くの観光客が訪れる。大学生になり、京都で生活を始めてから清水寺、金閣、銀閣、嵐山など多くの場所を訪れた。どの場所も印象に残っていて私のお気に入りの場所である。しかし今回は、それらのような観光地の紹介ではなく、駅伝という視点から京都について紹介したい。私は、昔から走ることが好きで、テレビでよく駅伝を見ていた。中学生の時、野球部に所属していたが、学校の代表として市の駅伝大会のメンバーに選ばれた記憶もある。走っている間はしんどく感じるが、その分走りきった後の達成感が大きい。今も時間がある時には鴨川沿いを走っている。私は、数ある駅伝大会の中でも、全国高等学校駅伝競走大会をよく見ていた。全国高等学校駅伝競走大会は、毎年 12 月に京都府京都市で開催される。意外かもしれないが、京都市は駅伝発祥の地である。そして、鈴木ゼミの活動テーマの一つである三条大橋とも関係が深い。京都と駅伝の関係に触れつつ、違った角度から京都について知ってほしい。

日本初となる駅伝は、大正 6 年（1917）4 月に開催された「東海道駅伝徒歩競争」である。出発点が京都・三条大橋で、ゴール地点が東京・上野となっている。そして三条大橋と上野にある不忍池には記念の石碑が建てられている。距離にすると、実に 514 km あり、昼夜を通して走った。レースには東京チーム（関東組）と名古屋・京都チーム（関西組）が参加した。23 区間を競ったレースは関東組が関西組に 1 時間 24 分の差をつけ、41 時間 44 分で制した。最長区間は 22 区（藤沢一川崎）の 33 キロだったが、途中アキレス腱を切った選手がいて、次の走者だった選手が急きょ 40 キロ越えを走るというアクシデントもあった。関東組の最終ランナーは当時 27 歳だった金栗四三さん

で、1912 年、ストックホルム五輪のマラソン種目に日本人として初めて参加したランナーで、日本のマラソンの父とも称される人物だ。一方名古屋・京都チームのアンカーは 52 歳の国会議員だった。ここで、なぜ東海道を走ったのかという疑問が浮かぶ人もいるかもしれない。それはこの駅伝のきっかけとなった博覧会に起因する。博覧会の名は「東京奠都五十奉祝大博覧会」である。奠都とは新たに都を定めることで、1868 年、



明治天皇が京都を出発して江戸城に入ったことを指す。このルートを再現するとの発想で生まれたのが東海道駅伝だった。



続いて京都市で開催される全国高等学校駅伝競走大会について紹介する。冒頭で述べたように毎年12月に開催される。1950年に男子のみの大会として開催され、女子の部は1989年から開催されるようになった。現在の京都が舞台となったのは1966年からで、それまでは大阪府での開催であった。女子のコースは西京極陸上競技場発着、京都市室町小学校前折り返しの5区間(21,097.5 km)となっている。男子のコースは西京極陸上競技場発着、京都国際会館前折り返しの7区間(42,195 km)となっている。男女両レースの発着地点となっている西京極陸上競技場のある、西京極総合運動公園には、野球場や体育館、プール兼アイススケートリンクなどがあり、多くの人々が利用している。また京都では全国高等学校駅伝競走大会以外にも、皇后杯全国都道府県対抗女子駅伝競走大会や京都マランも行われている。

最後に京都のおすすめランニングコースを紹介したい。一つ目は、2つの峠を越える鴨川上流山道コース。京都市街地から、北部の山間部を走って戻るアップダウンの激しいコース。地下鉄烏丸線北山駅をスタートし鴨川沿いを北上。川幅が狭くなると、徐々に上りになっている。多くの人たちがこのコース周辺を走っているのを目にする。私自身も、鴨川沿いを走るのは好きで、すごくリラックスできる。個人的に走ってみたいコースが二つある。世界遺産・二条城の外周を走るコースで距離にすると約2 kmとなっていて、キリが良い。もう一つは京都御苑外周コースで距離にすると約4 kmとなっている。このようなコースを、歴史や自然を感じながらランニングしてみたい。紹介した場所以外にも京都にはたくさんのランニングコースがある。

これまで、京都と駅伝という少し違った視点から、私の好きな京都について紹介してきた。駅伝の発祥の地として三条大橋について述べたが、三条大橋にはほかにも様々な魅力があり、鈴木ゼミで活動している一人として、多くの人にそれらを知ってほしいと思っている。コロナ渦において、外出する機会や、運動することが減っているのではないだろうか。私自身もそのような状況下で、改めて運動することの重要性を知った。めまぐるしい日々の生活に少しでも運動する時間を取り入れることで、心にゆとりを持つことができ、次の活動を行うための活力となっていた。京都は、駅伝との関係性が深い。また多くの観光地もある。そのような京都という地で、走ることに夢中になってみてはどうだろうか。今まで知らなかった、京都の魅力を発見できるかもしれない。

<参考文献>

<https://kyoto-marathon.com/v-okoshiyasu/>

<https://style.nikkei.com/article/DGXBZ039420160Y2A300C1000000/>

<写真引用>

<https://840.gnpp.jp/ekiden-no-hi/>